刊行にあたって

必要な情報を迅速かつ適切に探すためには、どのような言葉を手がかりとするかということが重要になります。

国立女性教育会館では、昭和 59 年度以来、女性に関する情報を効率よく検索するための用語集（シソーラス）の開発を進め、『婦人教育シソーラス 昭和 61 年度版』、『同 第 2 版』（平成 2 年）を刊行し、有益な情報を得るための検索ツールとして、広く利用されてまいりました。しかしその後の第 4 回世界女性会議、「男女共同参画社会基本法」の制定等、男女共同参画社会の実現に向けた国内外の様々な動向により、新しい用語の出現・定着が進んでいます。またコンピュータの進化とネットワーク化により情報検索における環境は爆発的に変化し、インターネット時代に対応する新しいシソーラスが求められるようになりました。

そのため、会館は平成 12・13 年度において「女性教育シソーラスに関する調査研究」を行い、その成果として、平成 14 年 4 月にホームページ上で「女性情報シソーラス」を公開し、提供しているデータベースに組み込みました。そしてこの度、その冊子体『女性情報シソーラス』を刊行する運びとなりました。

言葉は、新しいものが次々と出現し、変化するものです。「女性情報シソーラス」は、その変化に柔軟に対応するため、今後インターネット上で編集できるシステムにより整備充実していくこととしております。更に利用しやすいものとなるよう、皆様からの御意見・御提案をお待ちしております。またこのシソーラスは、他機関との共有を視野に入れて開発しましたので、積極的に御活用いただければ幸いです。

最後に、田中和子國學院大學教授をはじめとする「女性教育シソーラスに関する調査研究会」各委員及び外部専門家の皆様の並々ならぬ御努力、御協力に深く感謝の意を表します。

平成１４年１１月

独立行政法人国立女性教育会館理事長
大　野　　曜

開発の概要

１．開発の経緯

国立女性教育会館は、会館設立の構想の段階から、女性に関する情報の収集・整理・提供を行うことを会館の中心的機能の一つとして位置づけており、女性及び家族に関する国内外の情報センターとしての役割を果たしてきた。開館から 25 年を経過し、蓄積されてきた女性情報は様々にデータベース化され、平成 11 年からは、インターネットに接続できる環境であれば、誰でも利用することが可能となった。更に平成 12 年 3 月には、関連機関のホームページやデータベースを横断検索するシステム「WinetCASS（ウィネットキャス）」を開発し、国内外の関連機関との連携を推進している。

これらの情報を活用するために、情報検索を迅速かつ適切に行うには、専門分野の用語を整理し体系化した用語集（シソーラス）が有効である。このことは昭和 52 年 3 月に国立婦人教育会館（仮称）に関する懇談会がまとめた「国立婦人教育会館（仮称）の事業運営について」において示され、会館では、昭和 59 年度より「女性」及び「家族」の領域を対象とする「シソーラス」の研究開発を進めてきた。その成果として、これまでに、『婦人教育シソーラス　昭和 61 年度版』（昭和 62 年 5 月）、『婦人教育シソーラス　第 2 版』（平成 2 年 3 月）を刊行し、それらは会館の所有する各種情報をデータベース化する際に使用されるキーワード付与及び情報検索に使用され、関連情報を整理する際の枠組みとして機能してきた。

しかし、その後平成 7 年の第 4 回世界女性会議、平成 11 年の「男女共同参画社会基本法」制定等、男女共同参画社会の実現に向けた国内外の様々な動向により、新しい用語が出現・定着し、またインターネット等の普及による情報検索における環境の変化は著しく、時代に対応する新しいシソーラスが求められるようになった。

そこで会館は、平成 12 年から 2 年計画で、新しいシソーラス開発に関する調査研究会を設置し（別記参照）、調査研究を行った。その成果として、平成 14 年 4 月『女性情報シソーラス』を会館ホームページで公開した。現在、WinetCASS の各データベース、横断検索システムへのシソーラス検索機能の組み込みが進められている。またいくつかの女性関連施設において、データベースへの女性情報シソーラス検索機能の組み込みが検討されているところである。

２．開発の目的

『女性情報シソーラス』は、下記２点を目的として開発した。

①会館及び各地の女性関連施設等の女性関連情報データベースを効率的に検索するための「共通キーワード」の整理と体系化

②女性に関連する問題全般及び女性学・ジェンダー研究分野における「カテゴリー及び用語」の整理と体系化

３．『婦人教育シソーラス　第２版』との相違点

（１）タイトルの変更

「婦人教育シソーラス」から、「女性情報」の検索ツールであることを示す「女性情報シソーラス」へ変更した。

（２）用語数の絞り込み

『婦人教育シソーラス』は約 6,000 語を収録していたが、キーワードの付与に使われた用語を分析したところ、使われなかったものも多かった。このことから、新しいシソーラスは用語数を絞り、専門性の高すぎる用語の収録を見送ることとし、新たに加えたものも含め、索引語・同義語合わせて約 4,400 語を収録した。

目　　次

開発の概要　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・i

１．開発の経緯
２．開発の目的
３．「婦人教育シソーラス　第２版」との相違点
４．用語の選択・階層化に当たって
５．カテゴリーと内容
６．構成
７．アイデンティファイア
８．今後の予定

別記「女性教育シソーラスに関する調査研究」概要・・・vi

五十音順リスト

あ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・1
か　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・21
き　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
け　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・61
さ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・91
し　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・99
しゃ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・115
しょ　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・132
す　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・164
た　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・191
な　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・216
は　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・222
ま　・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・257

カテゴリー別リスト

１．思想・理論・運動　・・・・・・・・・・・・・・・*1*
２．歴史・民俗・宗教　・・・・・・・・・・・・・・・*2*
３．教育・研究　・・・・・・・・・・・・・・・*2*
４．性・心・からだ・健康　・・・・・・・・・・・・・・*4*
５．政治・政策・法律　・・・・・・・・・・・・・・*7*
６．社会　・・・・・・・・・・・・・・*9*
７．労働・社会保障　・・・・・・・・・・・・・・*11*
８．経済　・・・・・・・・・・・・・・*14*
９．世帯・家族　・・・・・・・・・・・・・・*15*
10．くらし・環境　・・・・・・・・・・・・・・*17*
11．科学・技術　・・・・・・・・・・・・・・*18*
12．ことば・情報・メディア　・・・・・・・・・・・・・・*18*
13．文化・芸術・スポーツ　・・・・・・・・・・・・・・*19*
14．一般　・・・・・・・・・・・・・・*20*

（3）共同利用の促進

シソーラスそのものをデータベース化することで、ネットワーク経由で共有することを可能にした。

（4）固定型シソーラスから更新型シソーラスへ

従来の印刷体での提供から、電子媒体での提供となり、またシソーラスの編集そのものもインターネット経由で行うことができるシステムを開発したことにより、用語の変化に柔軟に対応することが可能となった。

4．用語の選択、階層化に当たって

用語の選定、階層化に当たっては、『婦人教育シソーラス 第2版』を基本として行った。新しい用語等については、その後に出された様々な資料を参考としたが、主なものは下記の通りである。

European women's thesaurus : list of controlled terms for indexing information on the position of women and women's studies, IIAV(International Information Centre and Archives for the Women's Movement) ,1998
「大阪府立女性総合センター（ドーンセンター）情報ライブラリーキーワード一覧表」2000
『女性問題キーワード111』横浜市女性協会編集，ドメス出版，1997
『女性学キーワード』岩男寿美子，加藤千恵編，有斐閣，1997
『フェミニズム事典（新版）』リサ・タトル著 ； 渡辺和子監訳，明石書店，1998
『フェミニズム理論辞典』マギー・ハム著 ； 木本喜美子，高橋準監訳，明石書店，1999
『現代フェミニズム思想辞典』ソニア・アンダマール，テリー・ロヴェル，キャロル・ウォルコウィッツ著 ； 奥田暁子監訳 ； 樫村愛子，金子珠理，小松加代子訳，明石書店，2000

用語は、女性に関する事象・事柄としての重要性という観点から、選択・階層化している。そのため、必ずしも各学問分野の用語の体系的収録とはなっていない。また前述のように、専門性の高すぎる用語は採録を見送っている。その他留意したことは下記の通りである。

① 「婦人」「女子」は、意味的に問題ない場合、基本的に「女性」を用いることとした。
② 女性冠詞のついた用語は、原則として索引語には用いないこととした。
　例）「女性研究者」は「研究者」、「女性教員」は「教員」の同義語とする。
③ 差別ととらえられる語は同義語としても収録しないこととした。
④ 一つの用語の関連語は、40までとした。
⑤ 英単語の連語の表記については、中黒点を入れることを基本とした。これはデータベースにシソーラス検索機能を組み込む際に、中黒点を入れない形を自動的に同時に検索するように設定することが可能となったためである。
　例）「ジェンダー・バイアス」で検索した場合、「ジェンダー・バイアス」と「ジェンダーバイアス」の両方の語を含むものが検索される。
⑥ 略語あるいは漢字一文字の用語は、部分一致で検索する場合に、意図しない検索結果となる可能性が高いため、原則として採録しなかった。
　例）「スト」（ストライキの略を意図して検索）→ストレス、フェミニスト等が検索される。
　　「本」（図書の同義語を意図して検索）→日本、本質等が検索される。

５．カテゴリーと内容

『女性情報シソーラス』においては、『婦人教育シソーラス 第２版』（9 カテゴリー）、“European Women’s Thesaurus”（20 カテゴリー）等を参考に、利用者が活用しやすいようにとの観点から、女性情報の構造が見えやすく、しかし複雑になりすぎないよう、14 のカテゴリーを設定した。各カテゴリー毎の主な内容は下記の通りである。なお、「14 一般」は共通して用いることのできる語が属している。

No.	カテゴリー	主な内容	収録語数	
			索引語	同義語
1	思想・理論・運動	フェミニズム、女性解放思想、哲学、女性学、ジェンダー、性差、性差別、性役割、男性学、女性問題、女性運動	149	78
2	歴史・民俗・宗教	歴史、女性史、民俗、人類学、宗教	93	31
3	教育・研究	教育、学習活動、学校教育、社会教育、家庭教育、女性教育、青少年教育、生涯学習、学術研究	365	138
4	性・心・からだ・健康	セクシュアリティ、性行動、性の商品化、買売春、性暴力、生殖、妊娠、出産、心理、発達、カウンセリング、健康、医療、保健衛生、リプロダクティブヘルス/ライツ	362	182
5	政治・政策・法律	政治、選挙、政策、女性政策、男女共同参画、ジェンダーの主流化、行政、国家、国際関係、外交、戦争、平和、条約、権利、人権、民族、法律、裁判	351	141
6	社会	社会体制、社会変動、社会関係、社会集団、社会問題、社会運動、社会活動、女性団体、ネットワーキング、ボランティア、地域社会、都市、農村、少子・高齢化、人口問題、貧困、犯罪	327	125
7	労働・社会保障	労働、無償労働、労働者、雇用平等、労働条件、職業、社会保障、社会保険、社会福祉、保育、介護、年金	424	298
8	経済	経済開発、開発援助、産業、企業、労働力、税、所得、金融	191	62
9	世帯・家族	家族制度、家族関係、世帯構成、単身者、結婚、離婚、家事、家庭、育児、ドメスティック・バイオレンス	224	112
10	くらし・環境	生活、ライフスタイル、家庭経営、消費者問題、環境問題	186	46
11	科学・技術	科学、生命科学、バイオテクノロジー、生殖技術	32	21
12	ことば・情報・メディア	言語、コミュニケーション、情報、ICT、マスメディア、ミニメディア、出版、報道、メディア・リテラシー	132	53
13	文化･芸術･スポーツ	表現、表現の自由、芸術、芸能、文学、ファッション、スポーツ、余暇、遊び、レクリエーション	158	56
14	一般	＊上記カテゴリーに共通して使用できる語。 例）影響、活動、参加、対策、多様性、評価、問題	71	8
計			3065	1351

（２００２．１１現在。２つ以上のカテゴリーに重複して収録されている用語もある。）

６．構成

『女性情報シソーラス』は、（１）五十音順リストと（２）カテゴリー別リストの二部から構成されている。

（１）五十音順リスト

見出し語を五十音順に掲載。見出し語は索引語と同義語（検索時には索引語に置き換えられる。キーワード付与には用いない）の２種類がある。索引語は階層化されて表示されている。

①見出し語が索引語の場合

＜見出し語＞

＜カテゴリー＞

見出し語の属するカテゴリーを表示。複数のカテゴリーに属するものもある。

＜ＳＮ（Scope Note）＞

注記。見出し語の概念や範囲、またキーワード付与の際、注意すべき内容や事項について記述している。

＜ＵＦ（Used For）＞同義語

＜ＢＴ（Broader Term）＞上位・広義概念の語

＜ＮＴ（Narrower Term）＞下位・狭義概念の語

＜ＲＴ（Related Term）＞関連語

＜記載例＞

クオータ制（**索引語**）くおーたせい → 見出し語（**索引語**）見出し語よみ

＜５＞「政治・政策・法律」 → カテゴリー

ＳＮ　議員、雇用、移民の受け入れ、大学への入学者等の領域で、人員構成に性別、人種による偏りが生じないように受け入れる割合を定めること → スコープノート

UF　クォータ制 → この用語の代わりに見出し語を使用

UF　割当制

ＢＴ　ポジティブ・アクション → 上位・広義語

ＮＴ　パパ・クオータ → 下位・狭義語

ＲＴ　議会

ＲＴ　逆差別

ＲＴ　教育機会

ＲＴ　結果の平等

→ 関連語

⋮

②見出し語が同義語の場合

＜見出し語＞

＜カテゴリー＞

索引語として用いるべき語は、ＵＳＥ（代わりに～を用いよ）として示されている。

＜記載例＞

割当制（ＵＦ）わりあてせい → 見出し語（同義語）見出し語よみ

＜５＞「政治・政策・法律」 → カテゴリー

ＵＳＥ　クオータ制 → 見出し語の代わりにこの語を使用

（２）カテゴリー別リスト

各カテゴリーに属する用語が一覧できるように、見出し語をカテゴリー毎に掲載している。

７．アイデンティファイア

シソーラスは、キーワード付与に使われる統制された索引語とその同義語からなるが、アイデンティファイアは、索引語だけでは不充分である場合、より明確に内容を表現するために用いるキーワードである。『女性情報シソーラス』では、アイデンティファイアの範囲を次のように定めている。

人名、国名、地名、年代、機関・組織名、団体・グループ名、条約名、法律名、会議名、施策名、プロジェクト名、歴史上の出来事、人種・民族名、国民、宗教、言語、病名、食品名、職業名、スポーツ名、文学や芸術分野の作品名、動物・植物名

ただし、女性に関する領域できわめて日常的・一般的に使用され、かつ重要である用語（例えば「女性差別撤廃条約」（条約名）、「男女雇用機会均等法」（法律名）、「助産師」（職業名）等）は、索引語としている。

８．今後の予定

『女性情報シソーラス』が対象とする分野は、研究・実践・学習が相互に結びつき発展していく、広範かつ変化の多い領域である。そのため、用語の見直しは恒常的に行っていく予定である。

更に使いやすいものとするために、内容についての疑問、御意見等を下記までお寄せください。また、このシソーラスの共有について検討いただける機関は、御連絡いただければ幸いです。

国立女性教育会館情報課情報係
〒３５５－０２９２　埼玉県比企郡嵐山町菅谷７２８
tel:0493-62-6711（代表）
e-mail:webmaster@nwec.jp

＜別記＞

「女性教育シソーラスに関する調査研究*」概要

（１）趣旨

女性教育に関するナショナルセンターとして、男女共同参画社会の実現に向け、全国の女性関連施設における情報機能の充実に資するよう、女性教育関連語の新しい概念構造を体系化し、それに基づいてシソーラスを開発するための調査研究を行う。

（２）研究目的

1990 年に刊行した『婦人教育シソーラス 第 2 版』は、刊行以来、全国の研究者及び学習者が有益な情報を得るための検索語ツールとして、広く全国の女性関連施設において利用されてきた。しかしその後、第 4 回世界女性会議、国連特別総会「女性 2000 年会議」等の国際的動向並びに「男女共同参画社会基本法の制定」等の国内的動向と相俟って、女性学・ジェンダー関連の研究・教育の進展、地域における男女共同参画をめぐる取組の多様化等による情報量の増大、関連分野の多様化、新しい用語の出現等が進行したため、それに対応する新しいシソーラスが求められるようになった。

そこで、当会館及び全国の女性センター等女性関連施設の情報資源を有効に活用できるよう、女性教育関連用語における新しい概念構造を体系化し、インターネット上で提供する情報検索システムにおける「検索用語集（シソーラス）」の新しいあり方とその可能性を探るために調査研究を実施した。

（３）期間

平成 12 年度～平成 13 年度（２年計画）

（４）実施方法

①調査研究会の設置

調査研究会を設置し、年次計画に沿って調査研究を進めた。（２年計画）

・平成 12 年度：シソーラスの枠組みを検討。

・平成 13 年度：シソーラスの内容を検討し『女性情報シソーラス』として取りまとめ。

②調査研究会委員

主査　田中　和子　国学院大学教授・国立女性教育会館客員研究員

委員　青木　玲子　越谷市男女共同参画支援センター所長

尼川　洋子　(財)大阪府男女協働社会づくり財団･大阪府立女性総合センター企画推進グループディレクター

池田　淑子　東京大学大学院法学政治学研究科･法学部図書閲覧掛長

加藤　直樹　岐阜大学教育学部附属カリキュラム開発研究センター助教授

神尾真知子　尚美学園大学総合政策学部総合政策学科教授（平成 13 年度）

亀田　温子　十文字学園女子大学社会情報学部教授

橋本ヒロ子　十文字学園女子大学社会情報学部教授・国立女性教育会館監事

船橋　邦子　大阪女子大学教授（平成 12 年度、平成 13 年度は外部専門家）

藤原　千沙　岩手大学人文社会科学部講師

細谷　　実　関東学院大学経済学部助教授

伊藤眞知子　国立女性教育会館事業課研究員（平成 12 年度）

高橋　由紀　国立女性教育会館事業課研究員（平成 13 年度）

外部専門家　足立真理子　東京大学大学院
岡村　清子　東京女子大学文理学部助教授
堀内かおる　横浜国立大学教育人間科学部助教授
松原　洋子　三菱生命科学研究所特別研究員
村松　泰子　東京学芸大学教育学部教授、国立女性教育会館客員研究員
アドバイザー　安達　一寿　十文字学園女子大学社会情報学部助教授・
国立女性教育会館客員研究員

＊主査、会館研究員以外は五十音順・敬称略
＊所属・職名は依頼時のもの

③事務局　独立行政法人国立女性教育会館情報交流課

（５）経過

・平成 12 年 4 月
第 2 版の問題点の洗い出し（会館内）
関連機関へのヒアリング（国立オリンピック記念青少年総合センター、女性関連施設）
既に出版されている内外の関連シソーラスの比較検討

・平成 12 年 11 月　平成 12 年度第 1 回委員会（調査研究の進め方について）

・平成 13 年 2 月　平成 12 年度第 2 回委員会（カテゴリーの検討）

・平成 13 年 3 月　平成 12 年度第 3 回委員会（１４のカテゴリー（仮）の決定）
用語のカテゴリー分け
シソーラス編集システムの開発

・平成 13 年 7 月　平成 13 年度第 1 回委員会（用語の検討）
用語の階層化開始

・平成 13 年 10 月　平成 13 年度第 2 回委員会（用語・階層化の検討）
WinetCASS 各データベースへの組み込み検討開始

・平成 13 年 12 月　平成 13 年度第 3 回委員会（用語・階層化の検討）

・平成 14 年 2 月　平成 13 年度第 4 回委員会
（用語の最終検討、名称、公開、維持管理の検討）

＊ この調査研究は平成 12～13 年度という会館の名称変更（平成 13 年 1 月に国立婦人教育会館から国立女性教育会館へ変更）の時期に行われたため、平成 12 年度は「女性（婦人）教育シソーラスに関する調査研究」、平成 13 年度は「女性教育シソーラス（仮称）に関する調査研究」として行った。平成 13 年度、独立行政法人化に当たって定められた中期計画では「女性教育シソーラスに関する調査研究」となっている。開発されたシソーラスの名称は『女性情報シソーラス』である。